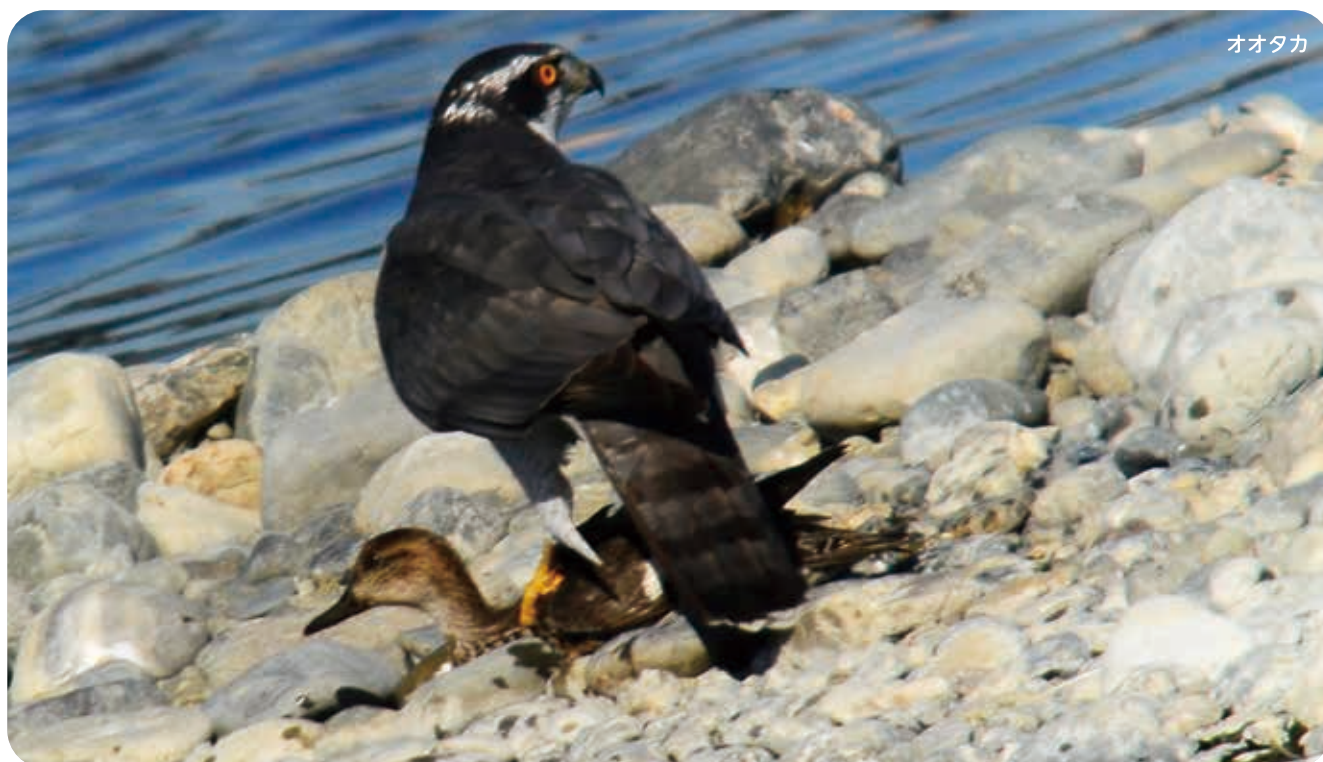


財団だより

第160号

2019.12

多摩川



オオタカ

猛禽

写真・文 大野 章(川崎市多摩区在住)

冬の多摩川中流域では、水辺や草地の冬鳥に加え、猛禽類もたくさんやってきます。年間を通してみられるトビ、チョウゲンボウ、ミサゴなどに加え、冬場にはカモ類などの冬鳥を狙う猛禽類も種類、数ともに増えます。

代表的なのはオオタカ、ハイタカ、ハヤブサ、ノスリ等です。

猛禽類が出現すると、採餌や休憩をしていたカモ類が、それを察知し、一斉に飛び立ち逃げ回ります。またカラスの大群が大騒ぎしながら猛禽を追い回します。

猛禽が猛スピードで他の鳥と絡む様子は、スリルと迫力があり、見ている方も興奮します。しかし時には、のんびりと木に止まり休んでいたり、水浴びをしている場面に遭遇することもあります。



ハヤブサ

目次

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| ■ 巻頭言 | |
| 第11回社会貢献環境学術賞受賞者 大澤 雅彦… 2 | |
| ■ 多摩川散歩… 4 | ■ インフォメ/多摩川… 10 |
| ■ 多摩川に学ぶ… 5 | ■ ヘタレサイクリスト多摩川を下る… 18 |
| ■ 連載5 有吉堤騒動… 6 | ■ 2020年度助成研究募集のご案内… 20 |
| ■ ニヶ領宿河原堰改築20年 | ■ 読者コーナー… 22 |
| アンバーサリープロジェクト… 8 | ■ 事務局より… 23 |

巻頭言



多摩川源流の村と水源林

中国雲南大学 特別名誉教授
公益財団法人自然保護助成基金 理事
第 11 回東急財団 社会貢献環境学術賞受賞

大澤 雅彦

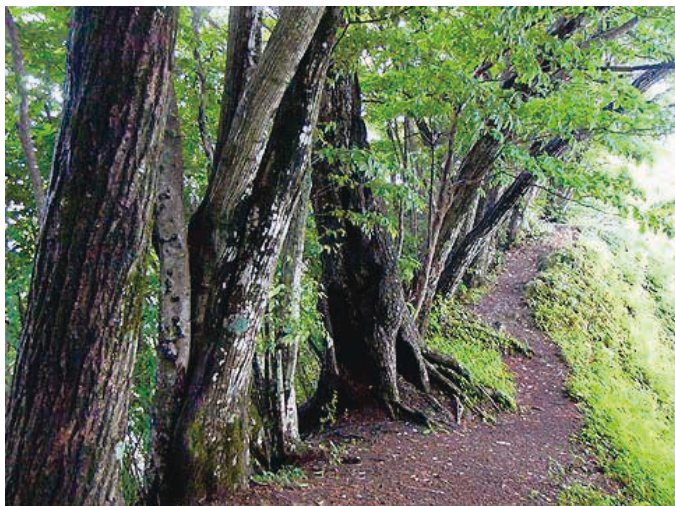
多摩川源流部

多摩川の源流を辿ると奥多摩湖の上流で二又になる。都県境を越えて山梨県丹波山村に入るのは北股の丹波川で、これが多摩川の語源という説もある。丹波川の源頭は笠取山（1953m）山頂直下の水干である。他方の南股は小菅川で小菅村から大菩薩峠を経て、尾根は三頭山の山梨と東京の都県境に至る。多摩川集水域北側の都県境は奥多摩最高峰の雲取山（2017m）で東京、山梨、埼玉（秩父）の三都県境である。この広大な集水域の範囲は、100 年以上前（明治 44 年）から東京の水道水源林として東京都水道局が管理している。東京の水源はこのように最上流部で山梨県側に広く飛び出して総面積 24000ha の森林地帯となっており水道水源林としては日本最大である。

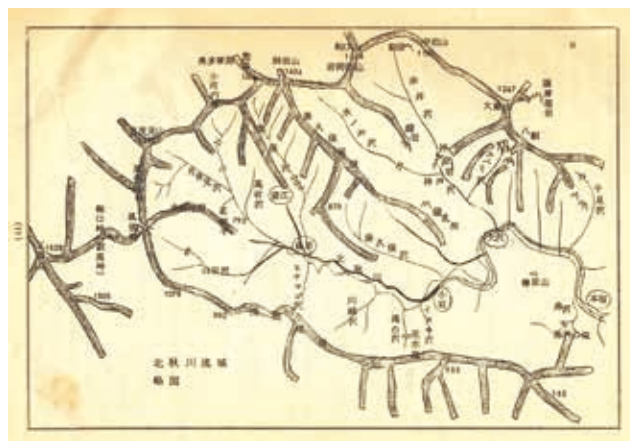
私は大学に入った 1964 年、高校時代の仲間たちと多摩川の南側の支流秋川の上流桧原村に夏休みの間こもって植物調査をしたことがある。北桧原小学校の見晴らしの良い第二分校をお借りし、手分けして当時、資料が少なかった主に北秋川沿いの尾根や谷を歩き回った。武田の落人部落という茗荷平には尾根伝いに古い大きな茅葺民家が立ち並んでいた。当時としては珍しくなりつつあったクリの大木が三頭山への上り口の尾根に沿って列状に森林を作っていて、これがかつてのクリーモミ群集の名残なのだろうと確認した。クリは当時から鉄道の枕木など耐久材として珍重され、武蔵野一帯はすでに二次林のクリーコナラ群集になってしまっていて大木はほとんど残っていなかった。



北秋川流域の植物調査報告



御前山一月夜見尾根に残るクリーモミ群集型自然林の名残（2003 年頃）



KFG 植物研究会 1964 KFG 研究報告

山梨県にある東京都の水源林

水道水源林のほとんどがある隣接する山梨県は昔から恩賜県有林と呼ばれる森林になっていた。私の学位論文は富士山の垂直分布帯の成立に関する研究であったが、調査地に選んだ富士山の山梨県側は、やはり恩賜県有林で森林限界のシラビソ、カラマツ、ダケカンバからミヤマハンノキの低木林まで全てその一部であった。森林限界の樹木個体の成長経過を調べるため特別伐採許可を取ろうとしたら国立公園ではあるが、恩賜県有林なので県で取るよう指示された。山中湖畔にあった東京大学富士演習林のお世話になり、演習林宿舎に泊まれなかった時は同じ敷地にある学生宿舎に泊まって調査に通ったこともある。学生管理なので毎朝当番制で敷地の草刈を担当したり、食事の配膳や片付けなどもやった。毎年その時期に流行っている歌謡曲がテーマ曲のように流されるのが日課で、私が通っていたときは山口百恵の「ひと夏の経験」がとくに印象に残っている。

恩賜県有林とその成立

さて本題に戻ろう、なぜ山梨県だけ天皇から下賜された恩賜県有林なのだろうと不思議に思ったが当時は野外調査が忙しく調べもしなかった。もともと山梨県は険しい山岳地域なので明治維新の頃までは焼畑や養蚕が盛んに行われていた。明治10年代以降急増する機械式製糸工場では蒸気機関の燃料用に大量の薪炭を使うので森林は荒廃していた。明治新政府のもと廃藩置県に際して林野も官民有区分の対象とされ、山梨県に多かった入会地の多くは官有に区分され、さらにより管理がしやすい御料林へと所有が変わった。こうした転換期にはとくに林野荒廃が著しい。とくに山梨県の林野の状態は最悪になり、荒廃した山岳地帯は水害が頻発し、それを見かねた明治天皇が明治44年に下賜されて恩賜県有林になったという。山梨県の恩賜林は29万ha強で県全体の森林面積の85%に達したという。

村の人と自然

明治維新は村の土地所有関係も大きく変化させた。丹羽邦男（1989）はそれまでの近世的な「有機的な土地利用関係」「再生産システム」が破壊され山野の荒廃をもたらしたと指摘している。農村は農地だけで維持されるのではないし、林業も林地だけで持続的な維持管理が出来るわけではない。しかし、共用してきた村の入会地まで所有関係を明確にさせ、(徴税がしやすい)「近代的土地所有(個人の私的所有)」へと変化させることによって、こうした有機的(生態的)システムとしての農村や林業が破壊されていった過程を明らかにしている。丹羽によるこの指摘はまさにその事を土地所有の視点から明らかにし、今日の里山保全の根底にある土地問題の本質を突いて示唆に富む。

土地を生産の場とする農業や林業のあり方はそれに付随して農耕地や林地の生物多様性も大きく変えてきた。マイクロ・スケールでの土地景観管理としてみると農耕地の中の非耕作地、林地の中の非木材生産地などは所有者がはっきりしない共用空間であり、人為の影響を受けつつも伝統的農林業活動の中で稀少野生生物にとっての生育・生息場を提供してきた(Ohsawa & Kitazawa 2009)。農林業と生物多様性の維持は、持続的な人々の生活を確保するという点からも重要である。

もう一つは日本の全ての社会にあてはまる高齢化問題で、山村ほど深刻なしわ寄せを引き起こす。私の研究室に研究留学していたウィーン農科大学(BOKU)のPia Kieningerさんは小菅村に住み着いて高齢化社会先進国としての日本の山村のあり方、とくに高齢化と人口減少のなかでどのように「活動的な高齢化」を実現していくのかという国際的に提起されている問題の視点から村の方々の活動について記録・研究した(Linhart et al. 2015)。

Linhart S, Prochaska-Meyer I, & Kieninger P (2015) Aged communities and active ageing-A case study of rural village in the Japanese Alps. Final Report. University of Vienna, Austria, Department of East Asian Studies, Japanese Studies. Vienna.

丹羽邦男 (1989) 土地問題の起源—村と自然と明治維新 平凡社選書

Ohsawa M & Kitazawa T (2009) Biocultural diversity and functional integrity of Japan's rural landscape. Die Bodenkultur 60(1): 31-40

多摩川散歩

多摩川源流大学から



多摩川源流大学事務局
NPO法人多摩源流こすげ事務局
東京農業大学非常勤講師

石坂真悟

村の新しい魅力が誕生

古民家ホテル (NIPPONIA 小菅 源流の村) オープン

小菅の湯から徒歩7分の場所にある、築150年の「大屋」。小菅村の旧家として古文書などが、蔵から発見されるほど歴史のある民家が、2018年8月にリノベーションの末、古民家ホテルに生まれ変わりました。母屋にはフロントとロフト付きの客室、蔵に1部屋の計4室。道路に面した長屋門はレストラン(22席)になりました。

ホテルのメインスタッフは、このプロジェクトのために移住した若い夫婦。ホテルのオープン前から村に移住し、村民との信頼関係を構築しながら自らも古民家のリノベーションに携わってきました。また、レストランで提供される食材のほとんどが小菅村産のものを使用し、1年を24の季節にわけた「二十四節気」を料理のコンセプトとして、メニューが2週間ごとに変わるという力を入れようです。

今までの小菅村になかった宿泊の一つの選択肢として、いかがでしょうか？



築150年の歴史ある建物を改築 (公式HPより)



古民家ホテルスタッフの谷口夫妻

小菅村情報

○地域おこし協力隊募集

全国で5000人が地方の地域で活動しているという「地域おこし協力隊」。小菅村では、地域の活性化や農業の後継者、新産業の担い手など過疎高齢化しつつある課題を解決するべく、平成23年度から地域おこし協力隊の受入れを行っております。この度、令和2年度の地域おこし協力隊の募集を開始いたしました。

NPO法人多摩源流こすげでは、平成23年度からスタッフとして皆さんに活動して頂き卒業後は、起業する隊員、NPO非常勤スタッフとして活動する隊員、村内企業へ就職する隊員など、多くのOB・OGが活躍されています。

少しでも地域おこし協力隊に興味を持たれた方は、ぜひお気軽にご連絡ください。

募集期間 (第1次選考)

令和元年10月1日(火)～令和2年1月31日(金)
令和2年1月31日消印有効

※郵送のみとしメールは不可

※定員に達しなかった場合は、追加募集を行います。

※詳細の募集要項については、小菅村役場HP「行政NEWS」をご覧ください。

<http://www.vill.kosuge.yamanashi.jp/>

小菅村のイマを発信中

○NPOこすげのメールマガジンのご案内

当法人では、小菅村の旬の情報をいち早く皆様にお届けするために、メールマガジンを毎月20日の月1回お届けしております。

私たちの行っている体験プログラムの日程や、小菅の湯でのイベント情報、都内への出店情報など、実はここではお知らせできていない情報が満載なのです。

まだ、登録してない方はぜひこの機会にご登録よろしくお願いたします。

もっと身近に多摩川源流小菅村を！

NPOこすげメールマガジン

こすげむらの情報がまるわかり！
ダイレクトに村の最新情報お伝えします！

<div style="background-color: white; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;"> NPO </div> <ul style="list-style-type: none"> ・体験プログラム情報 ・イベント情報 ・村の活動ブログ ・村での活動動画 	<div style="background-color: white; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;"> 道の駅 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・物産館新商品情報 ・源流レストラン情報 ・温泉イベント情報 ・フェリスアドベンチャー情報 	<div style="background-color: white; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;"> その他 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・村内季節のみどころ ・村内・出張イベント ・村内施設情報イベント ・おすすめスポットetc.
--	---	---

メールマガジンのご登録は下記の登録フォームまで。

info@npokosuge.jp

※本文に「お名前、メールマガジン登録希望」と記入しお送り下さい。

多摩川に学ぶ

多摩川と共にあることのリスクと喜び



NPO 法人砧・多摩川あそび村

理事長 上原 幸子

助け合う大切さを学んだ台風

「命を守るための行動を」。メディアから繰り返される今まで聞いたこともないような呼びかけに、多くの人が初めて避難を経験した台風19号でした。当然のことながら避難所は定員を超え、車で避難する人も多い中、駐車場を開放してくれた大型スーパーなど急遽の対応もありました。ご近所の協力で浸水を玄関で食い止めたという話もあり、放っておけないと助け合う姿に出会える機会ともなりました。今回の様々な経験をていねいにヒヤリングと検証することで、今後増えると思われる自然災害に備えた産官学民協働での仕組みづくりなどに活かして欲しいと思います。

多摩川の被災と復旧活動

今回の台風で河川敷には大量のゴミと泥が堆積しています。私たちの遊び場は、人工的なものは最小限に整地もしていない原っぱですが、大きな木も多数流れ着き壊滅的な状況でした。チェーンソーで流木を細かく切るなど、多くの方のご協力で連日の復旧作業が行われました。もちろん雑菌の心配は伝え、長靴とゴム手袋、マスク必須ですが、誰かが片付けてくれるのを待つのではなく、若いママ・パパ・子どもたちが、1日も早い遊び場再開と力を合わせてくれました。

元々、河川敷という公共の場で行政の許可の下で作った遊び場は、安全管理はもとよりメンテナンスも含め自分たちで責任をもって行っています。今の訴訟社会において、安全安心と引き換えに奪われていく子どもの自由な体験を守りたいとの親たちの思いがベースとなっています。その官民の協働の仕組みは、40年前に日本で初めて常設プレーパークを事業化した世田谷区が新しい公共の先駆けとなったとも言われています。今回、地域の多くの方からお手伝いいただき、多摩川の原っぱは素晴らしい人たちに愛され支えられていると、今更ながら実感しました。

しかし、二子緑地運動場周辺には陥没穴が複数確認され、子どもたちが安全に活動できる環境を取り戻すには、重機による行政の対応が必要です。



壊滅状態の原っぱ遊び場



倒れた樹木を起す

子どもたちは、たくさんいた虫たちが流され悲しんでいます。上流から流れてきたと思われるマムシをママたちが発見。濁流に負けずに流れ着いた命を見せながら、子どもたちに注意を促すことができました。また、陥没した大穴では、水たまりに取り残されたウナギやコイなどを発見し、子どもたちとプレーワーカーとでその救出作戦を実行するという思いもかけない出来事もありました。20年くらい前のことですが、前々町会長と子どもたちで魚の救出作戦を行った記憶が私にもあります。洪水には恐怖心が強い地域ですが、今回のことはいくつになっても忘れられないちょっと誇らしい体験となったことと思います。川のそばに住むリスクは大きくとも、川と共にあることで得られる喜びには計り知れないものがあるように感じています。



巨大な陥没穴からの生きもの救出作戦

多摩川改修 100 年

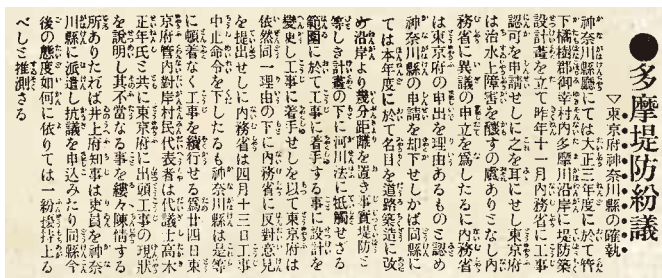
5. 有吉堤騒動



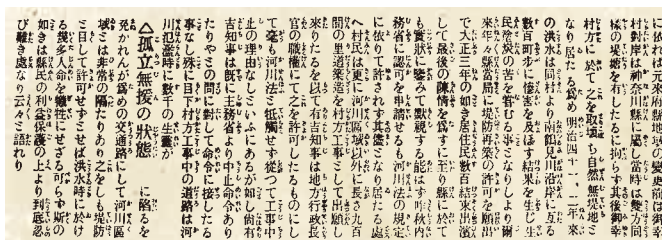
国土交通省国土技術政策総合研究所
主任指導官、博士(工学) 和田 一範

アミガサ事件(大正3年(1914年)9月16日)から約9カ月、多摩川築堤期成同盟會の奮闘空しく、橘樹郡の大分裂と御幸村の炎上を経て、事態は膠着状態になります。この状態を打破したのは、大正4年(1915年)9月、知事の交代による有吉忠一知事の登場です。大日本帝国憲法下での県知事は、国の役人が人事異動で派遣されてくる仕組みで、2、3年の任期で交代になります。学者肌で堅実な官僚の石原健一知事の後任は、山っ気が強く政治家肌の有吉知事でした。

最重要課題として多摩川築堤問題を引き継いだ有吉知事は、東京府側には立派な堤防が出来ているのに、神奈川県側は無堤で、毎年のようにこちら側に氾濫を繰り返す状況が、どうしても納得できませんでした。しかも東京府側が了解しないので、内務省が堤防建設を全く認めないという図式は、アンバランス解消のために、内務省の判断により、堤防建設を認める道を用意すべきだ、と考えたのです。そこで直ちに、新堤築造について内務省の認可を求めましたが、内務省はこれを認めませんでした。



連日報道される新聞記事 大正5年4月25日付東京朝日新聞



連日報道される新聞記事 大正5年4月26日付東京朝日新聞

10月11日、有吉知事は現地を視察します。地元住民たちの熱意に触れると、翌11月、無堤地区の郡道を、水害防止の目的により改修することを決定し、11月29日の県議会において「・・縣ノ力ニ於テ爲シ得ル範囲ノモノヲ是デ爲シテ往クト云フ決心デゴザイマス・・」として予算説明を行います。すなわち、秋元氏ほかが提案してきた、郡道改良によって堤防を建設する案を進めるということですが、実質的には郡道改良と銘打って、もともと計画していた新堤防を建設し、郡道と入れ替えるということなのです。

翌大正5年(1916年)1月25日、郡道改良工事が正式に認可され、2月に着工。毎日200名の地元住民が作業人夫をかって出て、工事は着々と進んでゆきます。

この工事は、対岸の下丸子村からは大変よく見えますので、直後から大騒ぎになりました。4月11日、東京府荏原郡内の各村代表は、東京府と内務省に対し反対陳情をします。また内務省小原技手は、多摩川の懸案地先として御幸村地内に出張し、前年10月に審議し不認可とした築堤工事が、道路工事で称して着手されていることを確認し、4月8日に復命します。この結果4月13日、内務省より工事中止命令が出ました。理由は、郡道改良であっても河川に影響がある場合には、河川法による国の認可が必要、ということです。

4月18日、対岸下丸子村の地元では、荏原郡役所からの指示として調布村の役人が分教場にやって来

て、内務省から工事中止命令が出たので、交替で工事の状況を偵察して報告するよう伝えられます。

一方、4月20日、神奈川県知事は内務省に対して、「こ

◆二ヶ領宿河原堰改築20年アニバーサリープロジェクト概要

二ヶ領宿河原堰(左岸:狛江市猪方、右岸:川崎市多摩区宿河原)は、平成6年から改築事業に着手し、平成11(1999)年3月に完成してから、令和元(2019)年で20年の節目を迎えます。

そこで、堰の果たしてきた役割等について、より知っていただくために、京浜河川事務所では下記のイベントを実施する予定です。

○行事予定

●パネル展

【時期等】

開催日:令和2年1月以降に実施予定

会場:二ヶ領せせらぎ館

【展示内容】

二ヶ領宿河原堰のこれまでの歴史や改築事業に関するパネルを展示



パネル展イメージ

●講演会

【時期等】

開催日:令和2年1月25日(土)開催予定

会場:宮前市民館

【講演内容】

二ヶ領宿河原堰改築事業や二ヶ領用水等をテーマとした講演会



二ヶ領用水

※台風19号に伴う出水により、前回お知らせしていた施設見学会については開催を見合わせさせていただきます。

日程等の詳細は、順次、京浜河川事務所のHPやFacebookなどでお知らせします。

京浜河川事務所ではFacebookを公開しています!

京浜河川事務所の取り組みや所管する多摩川、鶴見川、相模川、西湘海岸、沖ノ鳥島に関する情報を、みなさんに分かりやすく情報発信していきます



<https://www.facebook.com/keihin.river.mlit/>

◆台風19号(令和元年10月11日～13日)出水概要について

○出水概要

※この情報は速報であり、数値等は変わることがあります。

多摩川流域では、本川下流部の田園調布(上)と本川中流部の石原、支川浅川の浅川橋において計画高水位を超えました。
また、本川上流部の調布橋と大栗川の報恩橋では氾濫危険水位を超過しました。そのほかにも、本川上流部の日野橋では氾濫注意水位を超過し、多摩川河口では、水防団待機水位を超過しました。

観測所名	最高水位 (m) (生起日時)	水防団待機水位(m)	氾濫注意水位 (m)	避難判断水位 (m)	氾濫危険水位 (m)	計画高水位 (m)
調布橋	2.46m (12日21時40分)	0.20	1.00	1.20	1.60	4.70
日野橋	3.63m (12日21時40分)	2.00	2.80	—	—	4.71
石原	6.33m (12日22時50分)	4.00	4.30	4.30	4.90	5.94
田園調布 (上)	10.81m (12日22時30分)	4.50	6.00	7.60	8.40	10.35
多摩川河口	2.71m (13日4時20分)	2.30	2.80	—	—	3.80
浅川	3.65m (12日21時20分)	1.90	2.20	2.20	2.60	3.58

○出水後状況調査(10月24日時点・一部抜粋)



多摩川 2.3k 左岸 (東京都大田区)
棧橋流失



多摩川 30.6k 左岸 (東京都府中市)
低水護岸崩壊 L=200m



浅川 11.4k 右岸 (東京都八王子市)
河岸侵食 L=110m

台風19号出水概要の詳細は、京浜河川事務所のHPからご確認いただけます。
URL ⇒ http://www.ktr.mlit.go.jp/saigai/keihin_dis00082.html

インフォメ／多摩川

多摩川流域他の各種団体等の12月～2020年3月に開催される環境活動に関する
主な行事・イベント情報を紹介いたします。

美しい多摩川フォーラム（12月～3月）の事業予定（事業別）

■第12回多摩川子ども環境シンポジウムを開催

（12月7日（土）14時～16時半：フォレスト・イン昭和館／昭島市）

■お問い合わせ先

美しい多摩川フォーラム事務局（青梅信用金庫 地域貢献部内）

担当：及川／鈴木／木村

TEL 0428-24-5632 FAX 0428-24-4650

E-mail forum@tama-river.jp URL <http://tama-river.jp>

一般財団法人 世田谷トラストまちづくり

■早春のバードウォッチング ※場所未定

○2月22日（土） 午前9時30分～正午頃 ※要申込

■早春のみつ池体験教室 ～成城みつ池緑地

○3月28日（土） 午前10時～午後2時 ※要申込

■世田谷トラストまちづくりビジターセンター ～世田谷区成城4-29-1（野川沿い）

※開館時間：午前9時～午後5時

休館日：月曜および年末年始（12/29 - 1/3）

* 「身近な自然と触れ合うミニイベント」

1月5日（日）、2月2日（日）、3月1日（日）

※要申込 / TEL 03-3789-6111（それぞれ前月の初旬～中旬のお申込で抽選）

* 「みどりの上映会」

毎週土曜日の午前10時～正午、午後1時30分～3時30分 随時・申込不要

■申込・お問い合わせ先

（一財）世田谷トラストまちづくり トラストみどり課

TEL 03-6379-1624 FAX 03-6379-4233

〒156-0043 世田谷区松原6-3-5

財団HP <https://www.setagayatm.or.jp/>

鎌田南睦会 第31回「どんど焼き」

多摩川に隣接する鎌田南睦会の主催する多摩川の恒例行事です。

どんど焼きとは小正月の火祭りで、お正月に使った門松やしめ縄、お守り、破魔矢、祈願成就したダルマなどを持ち寄って焼き、その火にあたり餅を焼いて食べたりすることで、1年の無病息災を祝うものです。

地元・喜多見の竹や多摩川の茅を用いて、やぐらの設営を地域住民の協力で行います。

今年は台風19号により多摩川河川敷の茅が使用できず、開催を心配する声もありましたが、なんとか開催の運びとなりました。

お正月飾りをお焚き上げして欲しい方は、当日10時までに持ちください。

ダイオキシンなど有害物質を発生さないよう、分別をお願いしています。



日 時： 令和2年1月12日(日)

場 所： 多摩川河川敷二子緑地運動場ピクニック広場北側

式典開始： 10:30

やぐら点火： 11:00

餅の配布： 11:30

主催：鎌田南睦会 どんど焼き実行委員会

ホームページ：<http://kamataminami.sakura.ne.jp>

メールアドレス：info@kamataminami.sakura.ne.jp



川崎市域水辺の楽校

■川崎市域水辺の楽校開催予定

かわさき水辺の楽校	だいし水辺の楽校	とどろき水辺の楽校
12月7日(土) 多摩区の外遊び (多摩区と合同) 10:00～14:00 生田小学校下校庭	12月14日(土) つる網教室 13:00～15:00 干潟館と周辺	1月12日(日) 多摩川凧揚げ と 雑煮大会 10:00～13:00 多摩川とどろき河川敷
1月13日(月・祝) 凧つくり、凧揚げ大会 (多摩区と合同) 10:00～13:00 せせらぎ館	1月18日(土) 凧つくりと防災スキル 10:00～15:00 水防センター	2月16日(日) 多摩川水辺の楽校 シンポジウム川崎 13:00～16:30 (12時半開場) 川崎市総合福祉センター エポック中原
2月1日(土) 野鳥観察会 10:00～12:00 せせらぎ館集合	2月8日(土) 凧つくりと防災スキル 10:00～15:00 水防センター	
2月16日(日) 多摩川水辺の楽校 シンポジウム川崎 13:00～16:30 (12時半開場) 川崎市総合福祉センター エポック中原	2月16日(日) 多摩川水辺の楽校 シンポジウム川崎 13:00～16:30 (12時半開場) 川崎市総合福祉センター エポック中原	
	3月21日(土) 自然観察会 10:00～12:00 周辺の多摩川	

台風19号の被害で、開催場所等の変更が生じる可能性がございます。
ご参加の際は、ご確認の上よろしくおねがいいたします。

■お問い合わせ先

NPO 法人 とどろき水辺の楽校

理事・事務局 鈴木 眞智子

〒212-0004 川崎市幸区小向西町三丁目64

電話 044-201-1493 携帯 090-5814-9604

E-MAIL info@todoroki.org <http://www.todoroki.org>

みずとみどり研究会

■第9回多摩川流域歴史セミナーの開催のお知らせ

日 時：2020年1月18日（土）

午前 現地見学会（府中市内） 午後 セミナー

場 所：府中市郷土の森博物館会議室

（詳細は現在調整中です。決まり次第お知らせをいたしますので、京浜河川事務所ホームページまたは多摩川流域懇談会公式 Facebook をご覧ください。）

詳 細：国土交通省京浜河川事務所ホームページ

http://www.ktr.mlit.go.jp/keihin/keihin_index116.html

または多摩川流域懇談会 公式 Facebook

<https://www.facebook.com/tamaryukon>

（Facebook は「多摩川流域懇談会」で検索）

主 催：多摩川流域懇談会（市民（団体）・多摩川流域の自治体・河川管理者など）

■お申込・お問合せ先

多摩川流域懇談会事務局 みずとみどり研究会

連絡先：TEL/FAX 042-327-3169

E-MAIL mizutomidoriken@ybb.ne.jp

■第17回身近な水環境の全国一斉調査のお知らせ

日 時：2020年6月7日（日）※世界環境デー（毎年6月5日）

測定項目 気温、水温、COD、その他（任意）

測定方法 取扱説明書にもとづき、調査キットで測定

（参加申込者に2020年4月末～5月頃に配布予定）

参加申込：同封の申し込み用紙に必要な事項をご記入の上、**下記の事務局（みずとみどり研究会）宛に2020年3月10日（火）までに必ず**ご送付下さい。

（なお、ご記入いただいた個人情報はこの調査に関する連絡以外に、ご本人の許可なく使用いたしません。）

申込受付：参加申込された団体はホームページ等で公表させていただきます。

■申込み・お問合せ先

事 務 局 全国水環境マップ実行委員会

みずとみどり研究会気付

〒185-0021 東京都国分寺市南町 2-1-28 飯塚ビル 202

TEL/FAX 042-327-3169 E-mail mizutomidoriken@ybb.ne.jp

URL <http://www.japan-mizumap.org>

森林総合研究所 多摩森林科学園

■森林講座

講座開催日	講座タイトル
12月6日(金曜日)	森林スポーツの現状と課題
1月17日(金曜日)	木を発酵させて造る、香り豊かなアルコール －世界初の「木のお酒」を目指して－
2月14日(金曜日)	サクラ等を食い荒らす外来昆虫クビアカツヤカミキリの生態と防除
3月6日(金曜日)	－196℃で樹木を保存する

会 場 多摩森林科学園 森の科学館

時 間 各講座とも13時15分～15時

受 講 料 無料(ただし、森林講座が行われる森の科学館以外を見学される場合は、入園料として大人300円、子供50円必要となります。)

お申込方法 お申込の受付は各講座開催日の前月の1日からといたします。

(例) 12月6日の森林講座の受付は、11月1日到着分から受付は先着順で定員に達したら締切となります。定員に達しない時でも講座開催日の1週間前が締切となります。応募受付の回答は、先着順で順次お知らせします。

往復はがき、または電子メール shinrinkouza@ffpri.affrc.go.jp で承ります。

ご希望の講座名・郵便番号・住所・氏名・電話番号・参加希望者数を記入の上、お申込ください。なお、それぞれのお申込1通に対し、1講座3名までの受付とさせていただきます。

※お電話でのお申込は受け付けておりません。

※ご提供いただいた個人情報は、森林講座の連絡にのみ使用させていただきます。

■お問い合わせ先

国立研究開発法人 森林研究・整備機構

森林総合研究所 多摩森林科学園

〒193-0843 東京都八王子市廿里町1833-81

電話番号 042-661-1121 Email shinrinkouza@ffpri.affrc.go.jp

アミガサ事件100年の会

■講演会 テーマ：「多摩川に架かる渡し場から探る史実・伝承 江戸から明治へ」

講 師：馬込と大田区の歴史を保存する会

会長 樋口和則氏

日 時：令和2年3月28日(土) 午後2時～午後4時

場 所：上平間第三町会会館

川崎市中原区上平間1700-21(南武線平間駅から徒歩7分)

定 員：40名(先着順)

参加費：無 料 参加申込は、FAX又はお電話でお願いいたします。

FAXでお申し込みの際は お名前・連絡先・参加人数をご連絡ください。

■お問い合わせ先

アミガサ事件100年の会 織戸美紀世

TEL 080-9572-7479 FAX 044-511-1812



アミガサ事件100年の会



NPO 法人 砧・多摩川あそび村

■「きぬたまあそび村」

「自分の責任で自由に遊ぶ」多摩川の自然体験遊び場です。

世田谷区の委託を受けて運営し、プレーワーカーと呼ばれるスタッフが常駐しています。

日 時：毎週 4 日 月・水・金・土 13 時～ 16 時 30 分

場 所：多摩川河川敷二子緑地せたがや水辺の楽校はらっぱ

アクセス：東急田園都市線・大井町線「二子玉川駅」徒歩 20 分

東急バス 砧本村行き バス停：都市大グラウンド前下車 1 分

成城学園前駅行き バス停：砧南中学校前下車 4 分

多摩川河川敷の復旧工事に伴い、しばらくは午前には復旧作業、午後には開園します。

★イベント案内

◎自然素材を使ったクリスマスオーナメントづくり

12/2 (月) ～ 12/23 (月) 13:00 ～ 15:00

多摩川の流木やマツボックリなどを使って、クリスマスの飾りを作ります。 材料費：300 円

◎竹工作でお正月飾りづくり

12/16 (月) 13:00 ～ 15:30

竹おじさんが、ステキなお正月飾りを教えてください。

協力：世田谷トラストまちづくり・喜多見竹山市民緑地ボランティアの皆さん

◎原っぱ遊び場を元気にしようフェス

12/21 (土) 13:00 ～ 15:00

遊び場をみんなで作り直していくため、楽しい出店企画を募集して行います。

◎鎌田南睦会主催「どんど焼き」で凧づくり

1/12 (日) 10:30 ～

地元町会・鎌田南睦会主催の恒例行事で、凧づくりコーナーを担当します。 材料費：無料

◎草木染め

1/18 (土) 13:00 ～ 15:00

多摩川のオニグルミなど、台風 19 号以前に採取した自然素材で作った染め液を使用します。

講師：多摩川博士・えのきん 材料費：200 円

◎あそぼうパン

2/22 (土) 13:00 ～ 15:00

竹の棒の先に付けたパン種を、火であぶりながら焼くパンづくりです。

オーブンを使わず、災害時にも役立つ知恵です。 材料費：200 円

※整備工事の状況により、食べ物のイベントは変更になる場合があります。



クリスマスオーナメント



お正月飾りづくり



きぬたまフェス

詳細はブログなどに UP します。
下記にてご確認下さい。

■お問い合わせ先

NPO 法人 砧・多摩川あそび村

〒 157-0077 世田谷区鎌田 1-19-1-101 きぬたまの家

TEL 03-6447-9931

MAIL info@kinutama.com HP <https://kinutama.com/>

ブログ <http://asobimura.exblog.jp/>



きぬたまあそび村

NPO 法人多摩川エコミュージアム

■お正月遊び・凧づくり

日 時：1月13日（祭日） 10:00～12:00

場 所：ニヶ領せせらぎ館前広場と教室

内 容：凧を作って、広場で凧揚げ、広場で竹馬やコマ回しなどして遊びます。

参加費：300円（凧作りキット）

主 催：多摩区、かわさき水辺の楽校、NPO 法人多摩川エコミュージアム共催



■野鳥観察会

日 時：2月1日（土） 10:00～12:00

場 所：ニヶ領せせらぎ館に集合し、登戸周辺河川敷で観察会をします。

内 容：東京農業大学野鳥の会の学生がガイドをします。主に水鳥の観察となります。

参加費：300円（双眼鏡貸出あり、参加申し込み時に申し出）

主 催：かわさき水辺の楽校、NPO 法人多摩川エコミュージアム共催



■多摩川幼児サロン 桜井純恵先生の「なかよしランド」

（ご参加をお待ちしております）

日 時：1月14日（火） 10時30分～11時10分

2月 4日（火） 10時30分～11時10分

3月 3日（火） 10時30分～11時10分（含む防災教室）

場 所：ニヶ領せせらぎ階2階教室 参加費：300円（親子1組）

主 催：NPO 法人多摩川エコミュージアム



■お問い合わせ先

ニヶ領せせらぎ館（にかりょうせせらぎかん）【JR南武線 / 小田急線登戸駅下車徒歩8分】

TEL/FAX：044-900-8386 URL：<http://www.seseragikan.com/>

住 所：神奈川県川崎市多摩区宿河原 1-5-1

開館時間：10:00～16:00 5月～8月 土日祝は9:00～16:00

休 館 日：毎週月曜日（祝日の場合はその翌日）及び第一・第三水曜日



せたがや水辺の楽校

秋冬は主に『せたがや水辺の楽校原っぱ』で活動します！

所在地：世田谷区鎌田1丁目地先（区立二子玉川緑地運動場通称「ぶた公園」隣り）

◆あそびの日（第1日曜日 10時～12時）

生きものはかせと一緒に自然観察をします。（1月はお休み）

- ・12月1日：冬の生きもの観察会
- ・2月2日：バードウォッチング
- ・3月1日：原っぱのお掃除
- ・集合受付場所：せたがや水辺の楽校原っぱ



◆原っぱアトリエ（第3日曜日 10時～15時）

自然の中でアートを楽しみます。みんなで火を囲んで、お料理したり、ごはんを食べたりもするよ！

- ・12月15日：冬の飾りづくり
- ・1月19日：お外で大きな書初め
- ・受付場所：せたがや水辺の楽校原っぱ（時間内随時受け付け）



◆みんなの畑（不定期月1回・開催日はブログでお知らせ）

- ・12月7日（土）10時～14時 収穫とピザ作り
- ・開催場所：かわべ農園（世田谷区鎌田3-20）

◆2019年度多摩川子どもシンポジウム in 世田谷

子どもたちの水辺での活動を発表する場です。

- ・2月16日（日）10時～13時
- ・開催場所：東京都市大学二子玉川夢キャンパス



■お問い合わせ先

NPO 法人せたがや水辺デザインネットワーク

Mail info@mizubedesign.org TEL 080-3007-5413（村上）

HP <https://mizubedesign.org>

中止やプログラム変更などは、ブログに掲載します。

ブログ <https://semizube.exblog.jp/> FB <https://www.facebook.com/mizubedesign/>



～～多摩川と崖線の森の街で 一人ひとりが大切にされる毎日を～～

多摩川を下る!

ヘタレサイクリスト

その 8

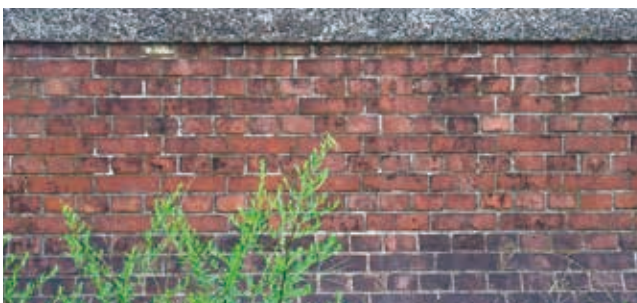
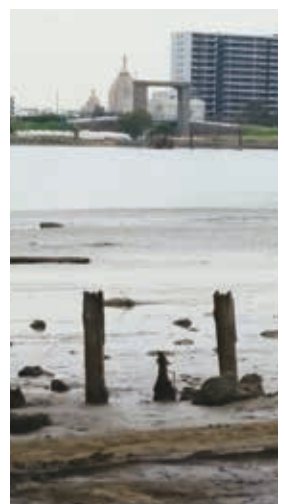
最終回

さて、前回渡ってきた大師橋。振り返れば、じつに美しいフォルム。ここから東京都大田区は羽田地区を通り抜け、一気に河口を目指すことにいたします。一気にとは言いましても、残りの行程は3キロ足らず、全力疾走するとすぐに着いてしまうので、まわりの風物を味わいながらゆっくり進みます。まさに「ヘタレサイクリスト、ここにあり」であります。



大正時代から昭和初期にかけて作られた、赤レンガの堤防。道に沿って描かれるゆるやかなカーブは、見ていて心地よいです。壁面からは歴史の重みを感じますなあ。

あたりは、典型的な漁村の雰囲気。時間が止まってしまったかのようなのです。干潟の奥に、対岸の川崎大師がちらっと見えます。天気の良い休日には潮干狩りの人でにぎわいますが、今はもう秋、あたりはひっそりと静まっております。



そこはかたなく潮の流れが漂ってまいります。屋形船の看板の先に飛行機の尾翼が立ち並びさまは、ここならではの風景。

このあたりの市街地は、堤防から少しばかり下がったところに広がっております。おやっ、あれに見えるは銭湯の煙突ではありませんか。



たまには休息も必要です。早速傍らに銀星号を停めてひとつ風呂。(中略) ああ、いい湯だった。湯上がりは当然、ラムネでしょう。



さて、ヘタってばかりいてどうする。再びペダルを漕ぎだし、残り少ない道のりをたどることにしましょう。銭湯の目と鼻の先は「五十間鼻」と呼ばれ、ちょっとした岬のようにとんがっております。その、さらにとんがった先にあるのが、この無縁仏堂。過去の空襲や水害で亡くなった方々を祀っているとのこと。合掌。岸边に打ち寄せる静かな波の音とともに、飛行機の着陸する響きがかすかに聞こえてまいります。



その目の前、弁天橋を渡ると、いやでも目を引くのがこの大鳥居。もとは空港の旧・ターミナルビルの前にあったもの。そこにはひとつこと「平和」。これ、いつの世にも大事なことですな。



厳かな気分から一転して、ナトリウムランプに照らされたトンネルを一気にくぐり、空港エリアに突入。ちなみに、走っているのは車ばかりで、自転車の姿は滅多に見ません(笑)。



川沿いに静かな公園があったので立ち寄ってみます。沖合には新しい橋を架ける工事の真っ最中。これが完成すると、対岸の川崎市殿町エリアとつながるわけであり。果たして、このあたりのたたずまいは、人の流れは、どう変わるんでありましょか(その時は、自転車で渡り初めしてみたいと密かに考えているワタクシ)。



いきなり、ババーンと目の前に展開する大工事現場。何が出来上がるかは、この看板が示すとおり。間もなく東京オリンピック! 開発ラッシュはとどまるところを知りません。完成の暁には、幾多の外国からの客人が、多摩川の風景を目にすることになりますな。



さて。大きなものに目を奪われると、どうしても小さなものを見失いがちです。この付近、国際線ターミナルを出て終点に向かうモノレールの橋桁が川に寄り添うあたり、岸壁のとある所に、こんな、手のひらほどの標識が埋まっております。実はここが、多摩川の河口地点なのであります。

いや、まわり見たって、どこが川だか海だかまったく分からず、そこらを泳いでいる魚もそんなことたぶん気にしてないと思うのでありますが、規則上は、ここから右が川、左が海ってことになっているのであります。

来し方、すなわち川の上流の方角を振り返ります。例えば、多摩川源流の地、山梨県は丹波山(たばやま)村では、生まれただけの川は嬉々として流れ、銀星号はペダルを漕がずとも全力疾走し、まさにほとぼる青春のような活力がみなぎっておりました。そして、ゆるやかな流れとともに住宅街や商業地域を縫う中流域を経て、ここ羽田の河口へ。川の流れは、まさに人生の縮図を見る思いであります。



さて、川はここで一巻の終わりではありますが、水の流れはその先、悠久の海へとつながっております。これからのワタクシの人生の多幸と、読者の皆様の清栄を願いつつ、ヘタレサイクリスト多摩川編、これにて幕とすることいたします。ご愛読、誠にありがとうございました。=完=



(取材 2019年10月)

2020年度 助成研究募集のご案内

多摩川およびその流域の環境浄化に関する 基礎研究、応用研究、環境改善計画のための研究・活動の募集

公益財団法人 東急財団（理事長 越村 敏昭）は、1975年より、多摩川およびその流域の環境浄化の促進や自然環境の保全などに必要な調査や試験研究を毎年公募してきています。その結果、これ迄に1,280件（学術研究801件、一般研究479件、約15億円）の調査・試験研究費用の助成をさせて頂きました。

2020年4月からの助成についても下記の通り、従来と同様、意欲的な調査や試験研究を募集致します。

応募資格

学識経験者の方はもちろん、一般の方でも下記テーマにあった研究で、意欲のある方であれば、どなたでもご応募いただけます。

助成研究対象テーマ

多摩川およびその流域の環境保全・改善に関する調査、試験研究

- ①産業活動または住生活と多摩川およびその流域との関係に関する調査および試験研究
- ②排水・廃棄物等による多摩川の汚染の防除に関する調査および試験研究
- ③多摩川およびその流域における水の利用に関する調査および試験研究
- ④多摩川を取り巻く自然環境の保全、回復に関する調査および試験研究
- ⑤シンポジウム、音楽会あるいは出版等による環境啓発活動や、歴史的な遺産あるいは社会システムの維持保全・回復運動等、多摩川およびその流域における環境保全や文化の創造に広く寄与する調査および試験研究

応募方法

当財団所定の申請書に必要事項を記入、捺印の上、財団宛ご提出ください。

（申請書用紙は、公式ウェブサイトからダウンロードできます。）手書きでの申請書はご遠慮ください。

助成の決定

2020年3月に開催予定の当財団選考委員会にて選考のうえ決定します。

応募期間 2019年9月1日（日）～2020年1月20日（月）

応募締切日 2020年1月20日（月）消印有効

応募にあたっての注意事項

- ①ご応募にあたっては、当財団の定める「調査・試験研究助成および個人情報の保護に関する規程」を必ずお読み下さい。（同規程は、公式ウェブサイトに掲載しています。）
- ②過年度に不採用となった調査や研究の再応募は受付けておりませんので、同一の調査・試験研究課題で再応募される場合は、前回のものと調査や試験研究の内容の違いがよく判るよう工夫して、申請書をご作成下さい。

助成研究の種別と条件

研究の種別	学術研究	一般研究
研究の区別	環境問題改善のための調査や試験研究で、専門性が高く、その分野の学識経験を必要とするもの。	環境問題改善のための調査や試験研究で、一般の市民が、特別な学識経験を必要とせず取り組めるもの。
	(財団の公式ウェブサイト過去の研究事例をご参照ください。)	
1件当たりの助成金総額 の上限額	400万円	100万円
単年度の助成金上限額	200万円	100万円
研究期間	最長2ヶ年	最長2ヶ年
助成対象費目 (1) 器具備品費 (2) 消耗品費 (3) 旅費 (4) 謝金 (5) その他	直接研究に使用する器具備品で1個、または一式10万円以上の固定資産 調査や試験研究に用いる各種材料、部品、薬品等 調査や試験研究のための交通費、宿泊費等 調査や試験研究のために臨時に雇った人の謝金等 機器・設備などの賃借料、通信費、その他	
助成の 対象とならない 費用	申請者本人および共同研究者の人件費 学会出席のための旅費 論文掲載料等	

最新情報は、当財団の公式ウェブサイトでご確認ください。

<https://foundation.tokyu.co.jp/>

読者コーナー



『多摩川“エコ”ラシコ』に参加しました。

2019年9月29日（日）

川崎フロンターレ選手会主催のクリーンアップ活動『多摩川“エコ”ラシコ』は、川崎フロンターレの選手と多摩川の清掃活動を行うイベントです。

清掃活動のあとは多摩川関連の楽しいプログラムが用意されています。

- ①ごみ分別体験
- ②多摩川水生動物観察体験
- ③ペットボトルいかだ作り体験



秋晴れの下 参加者全員でラジオ体操をして、班に分かれて清掃活動。禁止されているバーベキューで使用した炭やごみを土の中から見つける子供たち。子供の目線で見つかるごみ。大人の目線で見つかるごみは明らかに違います。親子で参加したので用意されたビニール袋はごみで満杯になりました。

前日の試合の疲労も見せず、川の中に入りごみを拾ってくれる選手もいて感動をしました。川崎フロンターレの選手は、自然にも子供にも優しいことを実感！

子供は、とどろき水辺の楽校のスタッフに導かれフロンターレの選手と同乗して、空きペットボトルで作ったいかだで多摩川を下りました。

子供たちを乗せる前に何度も試乗し安全を確認していたスタッフの皆さん、ずっと川の中で見守ってくださるスタッフの皆さん・・・本当にありがとうございました。

来年もまた是非参加をしたいと思います。

エコラシコ大好き親子より

参考

9月4日に開催された「ルヴァンカップ」観戦後に回収された2万本のペットボトルをとどろき水辺の楽校スタッフが丁寧に洗い、3艘の筏（いかだ）を作ったそうです。

1艘の筏（いかだ）に使われたペットボトルは630本です。オールもペットボトルで出来ています。

読者コーナーでは、「財団だより多摩川」へのご意見・又は流域のイベントの紹介、多摩川でみかけたものなど楽しいおたよりや情報をお待ちしております。

公益財団法人 東急財団 環境部宛に MAIL でお送りください。

▶メール宛先

env@tkk.tokyu.co.jp

事務局より

このたびの台風では、たいへんな被害が出ました。皆様は無事でしたでしょうか。災害のたびに、われわれ人間が実に小さい存在であることを痛感します。大自然といかに向き合うべきか。ただ単に「恐れる」のではなく「畏れる」ことの大切さを、少しずつですが、学んでいきたいと思えます。

さて。ヘタレサイクリストに代わり、次号から新シリーズがスタート予定です。引き続きご愛読のほど、よろしく願いいたします。来年は、さらに良い年でありますように。(Z)



第11回社会貢献環境学術賞の受賞者は大澤 雅彦氏です。

改めまして、心よりお祝い申し上げます。巻頭言にご執筆をいただきましたので、是非ご高覧下さい。

このたびの台風19号の被害に遭われた皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

被災された皆様が、一日も早く平常の生活に戻ることができますようお祈り申し上げます。(M)

- 発行日 2019年12月1日
- 編集兼発行 公益財団法人 東急財団 環境部
【 東急財団は下記の住所に移転しました 】
〒150-8511
東京都渋谷区南平台町5番6号
TEL 03-3477-6301 FAX 03-3496-2965
公式ウェブサイト：<https://foundation.tokyu.co.jp/>

多摩川の未来、 一緒に作りませんか？

当財団は、1975年から毎年、多摩川とその流域の
環境浄化・保全のための調査、試験研究や活動のお手伝いをしてきました。
2020年度は、次の要領により助成の申請を受け付けます。

助成の対象となるテーマ

- 産業活動または住生活と、多摩川とその流域の関係 ●
 - 廃棄物などによる多摩川の汚染の防除 ●
 - 多摩川とその流域での水の利用 ●
 - 多摩川を取り巻く自然環境の保全、回復 ●
- 多摩川とその流域での環境保全、文化創造に寄与するもの ●

助成期間 2020年4月から1年間 または 2年間

助成上限額 学術研究 年額 200万円 総額 400万円 / 一般研究 総額 100万円

締切 2020年1月20日(月)

応募方法など詳細は、公式ウェブサイトをご覧ください。

東急財団

検索



お問い合わせ

TEL: 03-3477-6301

2020年度

多摩川の環境に関する 研究・活動費用を助成します

公益財団法人 東急財団